

目次

基本情報			
目次・防災マップの活用方法について	1	風水害対策	21・22
5段階の警戒レベル	2	土砂災害対策	23・24
避難行動の流れ	3	地震対策	
マイ・タイムライン(行動計画表)	4	地震による地域の危険度マップ	25・26
避難の方法・避難所について	5	地震災害対策	27・28
自宅にとどまった場合の備え	6	その他災害対策	
ハザードマップの見方	7	火災対策	29
避難所一覧	8	竜巻・雷対策	30
ハザードマップ		防災情報	
全体索引図(水害・土砂災害ハザードマップ)	9・10	感染症対策	31
詳細図1～5(水害・土砂災害ハザードマップ)	11～19	自主防災組織	32
ため池ハザードマップ(浸水想定区域図)	20	災害時の情報伝達	33
		非常時持出品・備蓄品	34
		わが家の防災メモ	裏表紙

「本書の特徴」

本書は、いつ起こるかもしれないさまざまな災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。

予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、内容に目を通し、理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。身近に置いて、緊急時に持ち出してご活用ください。

防災マップの活用方法について

①住んでいる場所と予想される危険箇所を地図上で確認しましょう！

この防災マップには、予想される土砂災害の範囲と浸水の範囲・深さが色分けされています。自分の住んでいる場所の被害想定がどれくらいになるのかを確認しましょう。

ただし、予想される危険箇所は、このとおりにはならないことがあります。



②避難場所を確認しましょう！

この防災マップ8ページの避難所一覧で、避難所がどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。

③避難経路を考えてみましょう！

この防災マップで自分が住んでいる場所から避難所まで、どの道を通れば安全に避難することができるか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上の確認が済んだら、実際に避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大勢での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や近所の方と情報を共有しましょう！

この防災マップは、家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと、どこの施設に避難しているのかわかるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。(裏表紙参照)

